

林檎の森

10
2018
vol.435



特集1 Interview
若手後継者

特集2 回顧と展望

日本一の共販を生んだ産地 飛馬の里から

Interview

「農業未経験というハンデをバネに
いつまでも挑戦することを忘れず取り組みたい」

憧れていた「農業」という道

未知の世界に飛び込み

大きな夢を持った彼はヤル気に満ち溢れる

輝く後継者の思いとは…



おがさわら さとし (36) ●田子町出身で昨年3月に
JA相馬村管内でリンゴ生産者の道を歩み始めた若
手後継者のひとり。

道

南部田子町出身の元ホテルフロントマンという経歴を持つ小笠原聡さんは、昨年3月に就農した若手後継者の一人だ。父は運送業、母は専業主婦と農業には無縁であった小笠原さん。現在はJA相馬村青年部の一員として活躍し、地域の農業振興と高品質りんご生産に取組んでいる。

幼い頃からの自身の憧れには「宇宙飛行士」「医者」そして、「農業」の3つがあった。ホテルマンとしてキャリアに磨きを掛け続けてきた一方で、リンゴ共販日本一である相馬出身の妻との出会いが小笠原さんの人生を大きく変えることとなった。それは、言つまでもなく農業というリンゴ生産者への道だった。妻の父である沢田さんはJA相馬村青年部長、青森県農協青年部協議会副委員長、相馬村農協共防連会長を歴任し、JA相馬村の農業振興に大きく貢献してきた組合員の一人である。4姉妹の父であるさんは農業に「あ

これが」を持つ後継者を必要としていたなかで、昨年3月に小笠原さんに転機は訪れた。

未知

小笠原さんは、義父の思いを胸に右も左も分からぬまま迷わず農業という夢に飛び込んだ。36才にして農業という未知の世界に第一歩を踏み出した小笠原さんだが、不安の面影は全く見受けられず、もはや「挑戦」という力強い意気込みとイキイキとした「笑顔」しか伝わってこなかった。

就農を機に、すぐにJA相馬村青年部へ入部。小笠原さんにとって相馬という異国の地で初めて話しかけられたのが佐久間康幸青年部長だった。彼もまた、神奈川県出身の若手後継者だ。心強い仲間をバックに小笠原さんは更に想いが熱くなったという。日々たくさんの知識と先輩方の経験を吸収しているなかで、叱られることも少なくなかないが、それは成長過程のひとつとして受け止め、無我夢中で

取り組んでいる最中だと話す。また、未知の世界を目の前に、リンゴに特化した相馬の歴史にも勉強中とのこと。陸奥によって先人たちが築き上げてきた飛馬ブランドがあるなかで、今も尚「陸奥」の栽培にも力を注いでいる。我々にとって歴史ある「陸奥」の生産量が減少している一方で、小笠原さんは「陸奥」を大事に残していきたいとも話す。

満ち

リンゴ栽培を学ぶ上で「夢」は広がるという。ヤル気に満ち溢れる小笠原さんは、「消費者があつての生産者が存在する時代だと感じることから、リンゴを食べる習慣を一人でも多くの人に持つてもらえるよう高品質生産に取組み、誰もが認める美味しいリンゴを作りたい。また、今まで培ってきた人脈を活かし、自分のリンゴ、そして相馬のリンゴを世界中のみならず宇宙まで広げていきたい。」と意気込む。

温かな相馬の人たちに支えられ、彼の挑戦はまだ続く。



農業において後継者不足を迎えている一方、JA相馬村管内では多くの若手が輝いている。暖かい相馬の人柄に包まれながら奮闘する若い世代をピックアップして明るい農業を伝えて行きたいと思う。



相馬の仲間を支えられながら挑戦は続く

日本一の共販率を生んだ産地

飛馬の里から

9月下旬、早生ふじが真っ赤に色付き、中生種の収穫期を迎えたJA相馬村管内。弘前市街地よりやや高地に広がるリンゴ畑で生産された相馬産リンゴは色付きが良く、甘酸適和で味の良さが一番の特徴だ。平成30年産リンゴの出荷も快調な出足となり、主力品種である「ふじ」を中心とした晩生種にも期待が掛かる。

相馬の屋号ともいえる「飛馬」ひうま。

飛馬印リンゴが生産されているここ飛馬の里は、JAと組合員の深い絆が存在する歴史ある地域だ。

J A 相馬村

自然が美しく

リンゴが美味しい里

昭和39年10月に1村1農協としての「相馬村農協」が誕生。平成3年9月の台風19号によって落果したリンゴに対する迅速な対応を経て組合員との厚い信頼を築いたことをきっかけに全国でもトップクラスのリンゴ取扱量と販売額を生み出した。まさに、「リンゴ系統出荷率」日本一の名を誇る農協である。しかし、あれから月日は流れ、来年、55周年という節目を迎えようとしている現在、農業を取り巻く環境は作れば売れる時代から消費者ニーズに合わせた生産が必要な時代へとシフトした。消費地から選ばれる産地となり、飛馬ブランドの真価を発揮するためには、美味しいリンゴを作るということを大前提に生産から販売まで一休となった取組が重要となっている。

今回は、先人たちが築き上げてきたこの名高い「産地」と「組織」のこれまでを振り返り、後世に伝えていきたい。そして、組合員の豊かな暮らしの実現に向けて自己改革の目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を胸に飛馬ブランドの更なるグレードアップに結び付けていきたいと思う。

沢口義明さんのご家族（紙漉沢地区）。一番左から義明さん、公紀さん、舞さん、煌大朗くん、靖子さん。

協同のあゆみ

リンゴを柱とした現在のJA相馬村の原点はここにあった

「農協があのままでは、村が合併しても農協は大人にならない：だから今は合併できない。」宮川正久氏（宮川村長）の言葉だった。昭和30年、岩木、大浦、駒越、相馬、西目屋を除く中弘11市11村が合併し、相馬村にも広域合併の話がでていた。しかし、宮川村長は「このままでは、相馬の農協が



宮川 正久 氏

昭和24年から36年までA偉村長を務め、今の基礎を築いた相馬村の偉大な人物

ダメになる。農協をよくしてからでないと、相馬は合併してもダメだ。」と言った。宮川村長は農家のしあわせを常に考え、公金の出資や土地の提供など農協の育成を「農家のために何とせよ」ともやりたかったという厚い信念で業務を進めた。

昭和39年、相馬村農業協同組合と相馬第一農業協同組合が合併し、一行政区一農協が誕生し、農業振興と農家経営の安定に寄与する重要な役割を担うこととなった。相馬村は、リンゴ・コメを二大作物と位置づけ、特にリンゴ産業の振興には、生産指導と並行し流通部門の施設拡充を掲げた。相馬村農業の振興方向は合併当初から、リンゴ施設建設の必要性を訴えており、純農村としてリンゴを柱に推進することを確認したものである。当時の農家戸数は695戸で栽培面積は389.3畝、戸あたり56㎡と決して大きな面積ではなかったものの、リンゴに適した土壌、冷涼な気象、旺盛な生産意欲がリンゴ産業を強く育て、経営規模拡大を可能にした。

一方、相馬村の方針として生産技術の向上と教育活動を進めるた



農協が合併して間もない役員室

めに指導員の配置、広報誌の発行、共同販売などの奉仕活動やリンゴ主産地としての豊かな経済力を付けるための品種構成改善の斡旋、農協施設整備やリンゴと稲作の機械化に向けた推進など数多くの事業等を展開していった。また、稲作の省力化による余剰労働力をリ

ンゴに振り向けることによってリンゴに特化することを実現させ、相馬村農協が築き上げられていった。

合併10年の足どりをみると、国内経済の成長が高度化し、反面、消費者物価の高騰、貿易の自由化による農畜産物の輸入、コメの生産調整による減反、米価据置きと加えて自然災害等で農家・農協の経済基盤が弱体化の方向をたどるなど厳しい連続であったものの、組合員が主体性をもって農協を利用したことによって事業量は順調に経過したものであった。宮川村長の農家への思いやり、生産者、農協が一丸となって取組んできた結果が現在に及ぶと云えよう。

台風十九号の転機

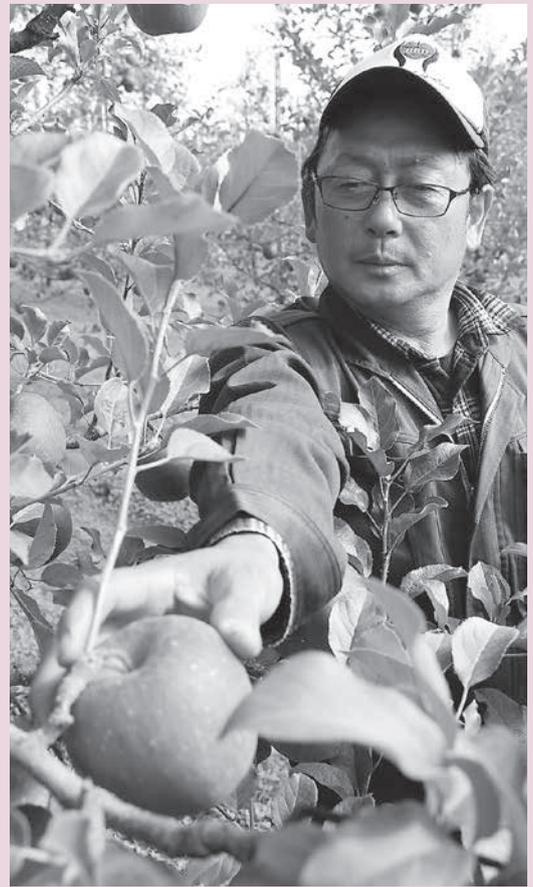
リンゴ栽培史上最悪の被害を受けた一方で、当JAは迅速かつ的確な対応に取組んだことで日本一の共販を生み出した

平成3年9月28日早朝、リンゴの収穫も間近という時に、瞬間最大風速53.9m/sで青森地方気象台が始まって以来の最大の強風を受け、

飛馬 の 里から



弘前市街地よりやや高地に広がる相馬のリンゴ畑



生産者ひとりひとりが高品質生産に向けて取り組むリンゴに特化した地域



生産から販売まで一体となった指導を最前線で展開



着色及び糖度・蜜入りが魅力

特集2

回顧と展望



台風19号でリンゴ園は壊滅的被害を出した

落果りんご34.5万ト、樹上損傷4.3万ト、樹体倒伏・裂開56万7,000本、被害総額742億円という青森県リンゴ栽培史上最悪の被害を台風19号がもたらした。台風19号の吹き返しがまだ止まぬ当日の午前7時30分、農協では緊急役員会議を招集。会議では地域

住民を午前中のうちに全職員で手分けして見舞うことを決めた。災害の中でただ茫然としている地域住民を見舞った職員に家屋等の被害調査を確認させ、共済加入の安堵感をもっていた。さらに、落果りんごは品種別に仕分けして集荷させるなど、県、経済連、農工連が対策を示す以前に農協独自の見切り指導をした。それが後に県内外のマスコミから大きな注目を集め、大成功となる。

地域によっては、落果りんごを深く掘った穴に捨てる戦略をとるなど、その光景は報道でも大きく取り上げられた。そのような中で、相馬村農協は積極的に大都会の消費者とのネットワークを活かして落果りんごを売りさばいた。また、各農協、商系とも「つがる」の選果荷造りが先決と、落果りんごは二の次とし、全国からの支援購入を断ったが、当農協は総合選果システムを駆使し、生産者の応援協力で「つがる」の選果荷造りを順調に進め、併せて落果りんごの選果荷造りもできた。そのため、購入申し込みのほとんどが当農協に殺到した。

当農協は、1億円を超える落果リンゴに対する助成及び災害対策費などの支出を組合員に明示し、企画力や決断といった生産者を第一に思いつ対応が組合員の心を掴み、それが後に「リンゴの販売日本」の農協を生み出すこととなった。リンゴ栽培史上最悪の被害を転機に「日本一の共販」が生まれたことは基より、「協同の絆」という大きな力が相馬村農協の財産となったことは言うまでもないだろう。この台風19号から我々は多くの教訓を得た。

消費販売動向の変化

消費者ニーズに合わせたリンゴ生産が必要時代となり、現在の消費・販売動向が確立された原点はここにあった

青森県リンゴの歴史をさかのぼると「津軽の国光、南部の紅玉」として品種構成が確立して以来、約7年間にわたってこれがリンゴ経営の定型となり、販売と消費開拓の主力であった。しかし、後の昭和40年代に国光、紅玉からデリ

シャス系とふじに品種構成の首座が交替した。

国光と紅玉の生産量の多さから過剰供給を引き起こす状況となつたことに加え、天候不良と早出しによる品質及び食味等の低下が要因となり「山川市場」と呼ばれる国光の大量投棄を迎える結果となつた。この現象の経緯には、販売及び生産者側目線である出荷ピークを避けた「早出し」などの思惑も含まれるのだが、赤くとも酸味が強いリンゴなどは消費者を失望させるとともに衰退の道を辿り、リンゴ産業は品種更新期を迎える。その更新品種は、まさに現在の国内生産量第一位を誇る「ふじ」である。「ふじ」の味覚は消費者に喜ばれ、高値でも飛ぶように売れたほか、流通業界としてもこのような消費性の高い果実に利巾が得られる商業利益に意欲的であった。

現在、スマートフレッシュ処理などCA貯蔵技術の向上によりリンゴ販売戦略が進化している中で、リンゴの輸出による国内需要調整も大きく精算単価に影響している。近年、リンゴの高値販売を保っており、昔のような大暴落もなく

なつてきているのが現状だ。しかしながら、やはり消費者の商品に対するこだわり、価格以上の感動を与えてくれる商品へと嗜好が変わつてきており、飛馬ふじなどは、年末の贈答シーズンにおけるギフトで全国のお客様から大好評を受けている。それは贈答品の原体が足りなくなるくらいの注文が殺到するほどである。消費者ニーズに合わせた生産は、今や当たり前前の時代を迎えたと言つても過言ではないだろう。高品質生産で農業所得増大に繋がっていることは言うまでもなく、これまで築き上げてきた消費者との飛馬ブランドに対する信頼を裏切らないためにも高品質生産でブランド力の維持に努めていかなければならない。

労働力不足解消への道

快適かつ円滑に作業を進めるためには、生産者と援農者（補助労働力）の双方が勉強し合う必要がある

リンゴに限らず、農業を取り巻く環境は高齢化や後継者不足を背景に労働力不足が深刻な問題と

なっている。農業の担い手や補助労働力不足の進行は、病害虫防除や早期適正着果、適期収穫などに影響を及ぼし、高品質なリンゴ生産を継続していく上で大きな課題である。当JA管内のリンゴ生産者においても、自家労働力だけでは間に合わず、労働力が足りていないという声が約半数の割合を占めているのが現状であり、雇用者においても高齢化により従来の雇用形態を維持することが難しくなっているのが現状だ。

平成30年9月26日に開催された「第54回通常総会」においても最重要課題の一つとして「労働力不足の対策に取り組み、農業生産拡大をはかる」との言葉が掲げられている。当JAでは、この問題をいち早く解消しようとする視点から取り組みを進めている。その一つに補助労働力確保に向けた「援農隊マッチング支援事業」の活用がある。この事業については、当JAが青森県のモデル地域となっており、大きな注目を集めている。この事業における特徴として挙げられるのは、出勤日や勤務時間

組合員をはじめ各関係機関が一丸となって産地強化を図る



農業者の所得増大

援農隊マッチング支援事業

高齢化対策として補助労働力の確保に向けた取組を展開



飛馬ふじ、優良系サンふじを中心にブランド力の維持・向上を展開



国内はもとより、海外輸出にも重点的に取組を展開

海外輸出の強化

を援農者に合わせるといった雇用条件の緩和である。これにより、今まで農作業を手伝いたくても条件が合わず、応募に躊躇していた層からの労働力の確保が可能となったのである。

援農隊の応募者の中には、農業業未経験者であっても「農業に触れ合い、少しでも農家の力になればやってみたい」という暖かい意見を持つ人も多い。そのような中で、当JAは援農者のリンゴ作

業における技術習得及び向上に向けて、インターネット上でホームページを活用した分かりやすい写真付きの説明と動画配信をスマートフォンからアクセス。

農業生産の拡大を展開していくためには、労働力も必要不可欠であることから労働力確保に向けて層の対策強化を図っていく方針だ。



リンゴ生産に特化した農協としてJA相馬村の地位が確立されたのは、数多くの苦難を乗り越えてきた先人たちの汗と涙の結晶であった。私たちにあって「相馬」という飛馬ブランドは誇り高き財産である。今後、年月とともに世代交代が加速していく中で、我々はこの歴史の歩みを後世に伝え、産地を守っていく必要がある。リンゴ生産においては、消費者ニーズにあった高品質生産が農業所得

の増大に大きく結び付いており、鮮度重視で適期収穫が鍵を握っている。当JAはリンゴに特化した単独農協としての生き残りを掛け、今後も組合員の皆様に最大限の力添えが出来るよう取り組んで参ります。

(参考：青森県りんご百年史
青森農業の発展と農協の販売力強化)

特集2 回顧と展望

農業生産の拡大



○りんご作業 (10/15~11/15)

りんご作業では、中生種の収穫や晩生種の着色管理が最盛期となっています。

収穫が早すぎると貯蔵中のビターピットの発生が多くなり、遅すぎると油上がりや果肉の軟化の原因となります。地色の抜け具合を確認し適期収穫に努めましょう。

収穫時期に悩んだ場合には、農業振興課に相談いただければ調査に伺います。

収穫した果実は、鮮度保持のために、できる限りその日のうちにJAへの入庫をお願いします。また、りんごの盗難が多くなる時期となりますので、園地での野積みは絶対にやめましょう。

○積雪前の野ネズミ対策

例年、冬の根雪の期間に野ネズミの被害に悩まれている方も多いかと思います。そこで今回は雪が降り始める前の耕種的防除を紹介いたします。

●野ネズミ被害を受けやすい園地

の特徴としては、園地が汚れていることが挙げられます。特に野菜などの畑作物を作付している所では、それらの残さをきれいに片づけ清耕にするようにしましょう。また、草生、敷草等を行っている場合は、野ネズミが巣を作りやすいので、積雪前に幹の周囲を清耕にして野ネズミの巣を壊す又は、巣を作るのを防ぎましょう。

●樹幹に対する野ネズミの被害は、成木よりも若木に多く、苗木及び若木に晩秋に地上1m位の高さまで（積雪の多いところでは更に上まで）樹幹に割竹、杉葉、金網、肥料等の空袋、合成樹脂のプロテクターなどの被覆材料を巻きつける。

○効果的な殺そ剤の使用法

殺そ剤は、園地が隣接する農家と共同で広範囲にわたって一斉に実施する事でより効果的に被害軽減が可能です。また、野ネズミの穴や通路穴に殺そ剤を投入する際には、土手や園内など雑草が茂っ

ているところに多いので重点的に行いましょう。

○忌避剤による対策

樹幹への処理の際、アンシスは10倍液を樹幹部に塗布または散布しましょう。

樹冠下への処理は、根雪前に樹冠下半径50cmの範囲の落葉、雑草などをあらかじめ取り除いた後、ネマモール粒剤30（1樹あたり100g）を均一に散布し、表土とよく混和する。混和後には鎮圧を行います。

▽苗木を植えた園地や、例年野ネズミの被害に悩まされている方は積極的に耕種的防除を行い被害軽減に努めましょう。

※今後は、本格的に収穫作業が忙



清耕でネズミ対策を！

JAで取り扱っている資材

商品名	使用方法	価格
ヤソチオン (5g×100袋入り)	小袋詰をソ穴に投入するか、野ソの通路に配置する。	670円
ZP (1kg入り)	10aあたり10~40か所に適宜配置する。	1,080円
粉末ラテミン (500g入り)	穀粉、ドッグフードなどにまぶし、10aあたり250~750gの割合で、ねずみ穴や通路に投入。または、適宜配置する。	1,112円
ネマモール (5kg入り)	1樹あたり100gを均一に散布し、表土とよく混和する。混和後に鎮圧を行う。	4,039円

※人間の臭いが付着しないよう手袋を着用する

しくなります。朝晩は冷え込みますので体調管理にも十分注意しましょう。ハシ「」や機械を使った作業を行う際は、機械点検や身の回りの安全を確認したうえで作業を行い事故防止を心がけましょう。

果実販売動向

販売課 米澤 松太



度重なる台風の影響により販売におかれましては衷心よりお見舞い申し上げます。

9月の果実動向は、秋果実主体の売り場構成の中、ブドウ・梨の前進出荷に加え、台風21号の影響から柿を中心とした枝折れ・落下被害などから果実全般に数量減の単価高となりました。

リンゴについては、長野県産サンツがるが前進傾向で8月販売が多かったことや、日焼け等による数量減から9月中旬にはほぼ切り上がり、青森県産リンゴヘスムーズに移行されました。

青森県産早生種についても、台風21号による落下被害および樹上損傷果に加えて、日焼け・黒星病等の影響により流通量は終了まで少なく、概ね順調な販売となりました。後続する中生種については、香港・台湾輸出向けを中心とする「トキ」の中秋節需要が9月中旬よりスタートし、それ以降の需要

も例年以上に活発となりました。また、度重なる台風襲来の懸念から「早生ふじ」系も9月下旬から出回り、中生種全般、例年以上に前進出荷、堅調取引となりました。当JAでは、9月中旬に早生種の選果が終了、9月末には完全に販売終了し、9月下旬より香港・台湾・タイ向けの「トキ」の輸出を開始することができました。組合員の方々にはご協力いただきありがとうございます。「トキ」についてはほぼ海外向けとなっており、堅調に販売されています。今後、極早生ミカンについては、本格化となりますが、梅雨明け以降の干ばつの影響から小玉傾向での見込みであり、ブドウ・梨・柿についても流通量が少ない見込みから、リンゴについては長野県産の秋映・シナノスイート・早生ふじ等の中生種がピークを迎え、売場の主力品種となっています。しかし、小売価格が高めに設定され

ていることや、台風による樹上損傷等の下位等級品の割合が多いことから企画販売により、売り場確保に取り組みます。当JAでは、10月中旬に世界一、紅玉、ジョナゴールド系、下旬からむつ、ふじ系、王林、名月、シナノゴールドのスマートフレッシュ処理を実施します。有利販売に努めますので、ご利用のほどよろしくお願いいたします。



一部で台風による落果被害があった

全農あおもりデータ・9/30

品 種	サンツがる	早生ふじ	ト キ	きおう	その他	合 計
単 価 (円)	2,815	3,735	3,316	2,851	2,918	2,842
前 年 比 (%)	117	115	109	119	108	117
数量 (箱/10kg)	839,986	14,695	10,202	127,616	51,374	1,043,873
前 年 比 (%)	89	87	230	96	87	90

直売所「林檎の森」

直売所 石岡 莉奈



いつも直売所「林檎の森」をご利用いただき誠にありがとうございます。

店内には、「きのこ」の出荷が最盛期を迎えるとともに、多くのお客様が「ナンバ」及び「ナンバの葉」を買い求めにご来店しています。その中でも、沢田地区で出荷している「清水森ナンバ」は特に人気があり、大好評です。ナンバやナンバの葉を買い求める多くのお客様は、自家製のナンバ漬けをつくるなど、様々な調理に活用されています。また、ナンバ味噌は「白飯」にも良く合い、茶碗で2杯、3杯と食欲が進みます。さら



キノコとナンバの葉が人気

に、ピリッと辛味が効いた美味しい「ナンバの葉の佃煮」もあるようです。是非、佃煮にも挑戦してみてはいかがでしょうか。

「林檎の森」の名の通り、珍しい品種を含む数多くのリンゴが出荷されています。シナノドルチェ、彩香、北紅、モーリーステリシャスなどあまり聞き慣れない品種については、お客様からも注目を集めています。近年、たくさんリンゴの品種が登場している中で、消費者向けに味の特徴などの説明もあるといいかもありません。

会員の皆様へお願い

商品にバーコードの無いものが散見されています。出荷の際に、今一度ご確認をよろしくお願い致します。また、リンゴの出荷が多くなるこの時期、適度な出荷で鮮度ある商品提供に努めましょ。商品の売上及び在庫状況をタイムリーにメールで配信する機能を有効活用し、商品ロス低減のご協力をお願いします。

いきいき女性部通信

農業振興課 女性部担当 堀井 裕子



9月19日、エルダーミセス部会研修会が青森県農協会館で行われました。

午前部では「成年後見人制度」について制度の必要性や開始するための手続きの流れ、費用などを学びました。講師は、青森県金融広報委員会の金融アドバイザーである中田鶴子さんが務め、「もしものお金の管理について」講義があったほか、実際にあった電話勧誘やネットショッピングでの詐欺についても紹介されました。

成年後見人制度では、詐欺にあっても契約の取り消しが可能であると聞いてホッとした反面、こういった制度を必要とした方々が狙われていることなどを考えさせられました。今後、制度の必要性を広く知ってもらえるよう周知していくとともに注意喚起についても促したいと感じました。

午後の部では、五所地区の沢田 笙子さんを講師に迎えて、相馬村制100周年記念ソング「相馬



参加者は踊りで交流を一段と深めた

小唄」を踊りました。他JAのエルダーミセス部員からは、「踊りやすく、とても良い曲。」と好評を受け、カセットテープやCDは貰えないかという問い合わせもあるほどでした。また、竹内女性組織協議会会長も「おこめ音頭」の踊りでその場を盛り上げてくれました。相馬地区に長年伝わる大人から子供までよく知られている曲で、参加者と交流が深められて大変楽しい研修となりました。

地域おこし協力隊 活動記 Vol.41



相馬地域おこし協力隊のあかりです。今回は、9月16～17日に行われた「ちびバス合宿～相馬を生き抜け～」の様子をご紹介します。

この合宿は、自然体験を通して子供たちに生きる力を身に付けてもらうことを目的に、NPO法人スポネット弘前さんが主催したものです。当日は弘前市内でバスケットを習う小学生約30名が相馬を訪れました。

協力隊は、合宿の受け入れと相馬地区のガイドをさせていただいたので、その様子をお届けします！

最初のイベントは、「相馬まるごとオリエンテーリング」。協力隊が用意した相馬に関するクイズ全20問を解くべく、グループに分かれて地区内探検。

日頃バスケットで身に付けた元気なあいさつで、地区住民にどんどん聞き込みをしていました。お昼は成岩商店でカレーライスをいただきました！

午後は「エビ釣り」と「紙漉き」に分かれて体験教室へ。

オニテナガエビの釣り堀には20名の子供が殺到し、ユニークな作戦でエビ釣りを楽しんでいました。山崎隆穂さんからすいかのご褒美も！！

一方、紙漉き体験には10名が参加し、思い思いの絵を描いて楽しみました。その後はみんなで藤田顕さんの畑に移動し、「サンつがる」の収穫体験へ。

よほど嬉しかったのか、もぎ取ってその場で丸かじりする子が続出！

続く3時のおやつでは、女性加工グループ「芽女倶楽部」と一緒に「焼きりんご」を作りました。気になるお味は…甘くておいしい～！

夜7時過ぎ。怖がる子供たちが連れてこられたのは「長慶天皇ご陵墓参考地」。上皇宮の田澤俊則さんによると、長慶天皇は学問優秀だったということ

で、子供たちが頂上まで登り「頭が良くなるお守り」をもらってきてもらう「肝試し」を企画しました。怖さとワクワクが入り混じった肝試しは好評！ この日は紙漉沢の子供たちも10人遊びに来てくれました。

最後は天文台で観望会。半月のクレーターを見た後、藤田館長から天の川

についてお話を聞きました。宿泊はロマンチックピアの「コテージ」に泊まり、翌朝は流しそつめん、スキー場アタック、BBQと相馬を満喫していただきました。協力していただいた相馬の皆さん、本当にありがとうございました。



此処は農協の選果場の入口の所。坐わつて雑談を交わしているのが油売りとオンベの二人。

油売り「オラ方のムラで今、一番所得が多いのは何処の家だべ」
オンベ「畑のほか、月給取りがある家だべ」

油売り「昔と変つたな——」

オンベ「青森県総覧」に載っている昭和二年の所得税を見ると、成田重雄、成田藤吉、中沢豊吉、大場徳太郎、田中才太郎、大場久吉という順番になっているな——」
油売り「ほかに家屋税というものがあつたとか」

オンベ「ソ、それだと、中沢豊吉、成田藤吉、中沢清十郎、三上健三郎、山内勝実、田沢要介、田中才太郎となつているな——」

油売り「マッカーサーの農地改革命令で、耕作人に、タダ同様に渡されてしまった家は何処の家だべ」
オンベ「昔は、蔵が二つ無ければ村の収入役に選ばれなかつたぞうだな」

油売り「なしてヤ」

オンベ「税金が入るまで、役場にカネがなければ、収入役の個人のカネで役場の職員に給料を払つたりしたものだぞうだ」

× × ×

オツカネエもの

昔は 地震、電水、火事、オヤジ

と言われた

今は 台風、クロホシ、

ネズミとカッチャ

× × ×

「美人薄情」という諺がある。

あまり美人でないカッチャはサービスが良いとのこと。

（清水森カッチャ）はごこの奥さんですか）

カカー天下

和郷

の家には

福の神が

入る



飛 芳香
度

双度

義信
92才

十月の川柳

台風禍
おさえて山神
ありがとう

愛好家
鶴首して待つ
愛飛馬

(田沢勝衛)



お知らせ

JA相馬村農産物信頼システムの回収の時期となりました。下記の通り、記入及び提出をお願いします。

**10月上旬の提出用紙
(農協提出用)**

1、防除記録
2、誓約書

※栽培日誌・りんご生産量調査・基礎GAPチェックリストにつきましては、12月に当JA職員が再度回収に伺います。



編集部のつづき～編集後記～

今回の特集にあたり、相馬村農協と青森県リンゴの歴史を模索。資料に目を通すと時間はあっという間に過ぎ、さらにはタイムスリップしたかのように感じました。また、戦後はじめて作成された映画「そよ風」の主題歌であった「りんごの唄」が思いがけない「りんごブーム」までに発展したこと、リンゴが戦後の虚無状態に陥った日本国民にとって古きよき時代を思い起させる平和の果実とされていたことは私の心に深く響きました。リンゴ王国であるこの地に生まれた青森県民として、一人でも多くの人に知ってもらいたいと思います。また、生産者も消費者も幸せなリンゴづくりに貢献できるよう今後も日々の業務に努めていきたいと思ひます。(S.daikiy)

今月の表紙
相小生が「文字入リンゴ」づくりに挑戦

理事会だより 9月20日(木)

1) 8月末残高試算表について
2) 米穀共同計算基本要領の改正および米穀共同計算取扱要領の設定について
3) 平成30年度米概算金等の設定について
4) ローン融資要項の一部改正について
5) 貸付関係について
6) りんご販売関係について

臨時理事会だより 10月2日(火)

1) 行政庁に提出する業務報告書について
2) りんご販売関係について

今月のあなたの運勢 ★ 11月 ★

モナ・オサンドラ 

<p>♈ 牡羊座 ★ 3/21 ~ 4/19</p> <p>全体運 考え方が後ろ向きになりやすい期間かも。意識的に笑顔を手付けましょう。また、感謝できることを探すと開運に</p> <p>健康運 良好。運動で体を動かすと、なおグッド</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 カボチャ</p>	<p>♉ 牡牛座 ★ 4/20 ~ 5/20</p> <p>全体運 あれこれ余計なことまで気にして動けなくなり、つきを逃しがち。開き直りの気持ちで大切に。花を飾るのも吉</p> <p>健康運 ストレスを感じそう。スポーツで発散を</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 ヒラメ</p>	<p>♊ 双子座 ★ 5/21 ~ 6/21</p> <p>全体運 うわさに興味を持つのは避けた方が無難です。それより、自分が好きなことに意識を向け、それを満喫するのが正解</p> <p>健康運 楽しく体を動かせば体調アップの呼び水に</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 エノキタケ</p>	<p>♋ 蟹座 ★ 6/22 ~ 7/22</p> <p>全体運 クリエイティブな能力が開花しやすい月。絵を描くなど、やってみたいことに注目を。お芝居を見に行くのも◎</p> <p>健康運 運動不足になりがち。小まめに動くこと</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 野沢菜</p>
<p>♌ 獅子座 ★ 7/23 ~ 8/22</p> <p>全体運 思い込みが激しくなりそう。人の話を早のみみまじないよう、ご用心。気分リフレッシュには手作りにはトライを</p> <p>健康運 上質な睡眠を目指して。心身とも元気に</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 ゴボウ</p>	<p>♍ 乙女座 ★ 8/23 ~ 9/22</p> <p>全体運 人脈のネットワークを広げる好機。飲み会などの誘いには気軽にOKを。初対面の相手でも気さくに話し掛けて</p> <p>健康運 健康術に凝り過ぎ。ほどほどがベストです</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 ミカン</p>	<p>♎ 天秤座 ★ 9/23 ~ 10/23</p> <p>全体運 頼まれ事など、まずは必要な作業から手を付けましょう。その後、プライベートの充実を図ると喜びが倍増</p> <p>健康運 快適に過ごせます。アクティブに行動を</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 レンコン</p>	<p>♏ 蠍座 ★ 10/24 ~ 11/22</p> <p>全体運 幸運期。自分の考えやアイデアなどを思い切ってオープンにすると好結果に。新しい世界に飛び込むのも大賛成</p> <p>健康運 適度に休息を取り、英気を養いましょう</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 タロコ</p>
<p>♐ 射手座 ★ 11/23 ~ 12/21</p> <p>全体運 サービス精神を見せることで、周囲と円満な関係を築ける時期。縁の下の力持的役割も快く果たし、人気者に</p> <p>健康運 耳寄りな健康情報をゲット。試してみても</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 ユリ根</p>	<p>♑ 山羊座 ★ 12/22 ~ 1/19</p> <p>全体運 知的好奇心が旺盛になる兆し。調べてみたいことがあれば、じっくり探究して。サークルやグループ活動にもつき</p> <p>健康運 暴飲暴食はNG。食事の中身にも考慮を</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 リンゴ</p>	<p>♒ 水瓶座 ★ 1/20 ~ 2/18</p> <p>全体運 やたらとプレッシャーを感じる暗示。誰かと比べず、自分らしさを大切に。気晴らしにはハーブティーを飲んで</p> <p>健康運 自然の中を散歩すると体調に好影響あり</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 こんにゃく</p>	<p>♓ 魚座 ★ 2/19 ~ 3/20</p> <p>全体運 開放的な気分になれる予感。過去に駄目だった挑戦にリベンジできそう。海外に関することにも幸運があるはず</p> <p>健康運 生活ペースが乱れがち。リズムを整えて</p> <p>幸運を呼ぶ食べ物 そば</p>

ひときわ輝くパートナー

「おらほのりんご」でさ行く編



波飛沫を上げるアンドン



サイドバンパーにマーカーが並ぶ



3連ロケットテールが渋い!



荷台天井にLED



三栄急送(株)が広島に向けてJA相馬村を出発!



飛馬りんごが丁寧に積み込まれる



山麓で作られる飛馬りんご「トキ」



早生ふじ[昂林]

中生種のりんごが収穫期を迎えたJA相馬村管内。気温も下がってきたことでりんごがより一層色付き始めた今日この頃。また、昼夜の寒暖差によって実が引き締まり、糖度の高い美味しいりんごが収穫されている。

今回、当JAフルーツステーションから出荷されたのは、早生ふじ(昂林)とトキ400ケース。甘味の強さが自慢の昂林は、蜜が入るものもあり、人気のふじによく似た味わいだ。一方、トキは王林とふじの交配で誕生した、青森生まれの品種。酸味は弱く、コクのある爽やかな甘味とシャキシャキとした食感が好評だ。行先は広島県で、三栄急送(株)のプロドライバーが片道約22時間掛けて運ぶ。りんごは少しの衝撃でも押しキズが付きやすいことから、いつも丁寧な積み込みを意識しているとドライバーは話す。

日本列島最北の青森から、南の広島にかけて今日も安心安全に飛馬りんごが届けられた。



魅力

Part 2



農業振興課
広報担当
齊藤 大貴

JA相馬村広報

林檎の森

2018.10 Vol.435

- 発行者
相馬村農業協同組合
〒036-1593 青森県弘前市大字五所字野沢23-1
TEL.0172-84-3215 FAX.0172-84-3497
- 編集
総務課広報
ホームページURL <http://www.ja-souma.or.jp/>
e-mail:soumuka@ja-souma.or.jp
- 発行日
2018年10月15日

JA 相馬村概況

〈平成 30 年 9 月末日現在〉

組合員数	878 人
(うち准組合員数)	363 人
出資金	630,620 千円
貯金額	9,233,831 千円
共済保有高	3,481,920 万円